



令和 6 年度



Akiha 教育懇談会 報告書



令和 6 年 8 月 2 3 日 (金)

秋葉区文化会館



1 事業目的

- ・秋葉区の個性を生かし、次世代を育む環境づくりを推進するため、区内教育担当者を対象にした懇談会を開催する。
- ・地域の子どもを育てる当事者としての意識を高め、地域の教育向上をはかるとともに、地域が教育に積極的にかかわる機運を醸成する。

2 日 時

令和6年8月23日(金) 13:30～16:20 (開場 13:00)

3 会 場

秋葉区文化会館 大ホール・練習室 1

4 テーマ

未来を担う子どもの豊かな成長は「地域とともにある学校づくり」から
～学校と地域の連携で未来を支える防災をどう考えるか～

5 日 程・内 容

【 開 会 】

13:30 開会あいさつ (副市長・新潟薬科大学 副学長)

【 第 1 部 情報提供・地域学校協働活動発表 】 (55分)

13:40 区長報告「R6 秋葉区方針：災害に強く、こども真ん中の秋葉区づくり」

13:50 新津第二小学校「新津川おかえり☆灯りぷろじえくと」成果発表

14:10 小新中学校「学校における防災教育の実際」小新クエストの取組み

14:35 移動・準備・休憩 (15分) ※大ホール舞台、練習室 1 へ移動

【 第 2 部 グループワーク 】 (50分) ※コーディネーター：大正大学 金子 洋二 氏

14:50 テーマ「地域の未来を支える防災をどう創るか」

・地域防災の未来像を共有する

・目指す未来像のための課題とその解決方法について

15:40 移動・休憩 (10分)

15:50 情報共有・感想発表

16:05 コーディネーターによる総括

【 閉 会 】

16:15 閉会あいさつ (自治協議会 会長)

アンケート

16:20 解 散

6 参加者

- ・区内の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校
(園長・校長・教頭・教諭・地域教育コーディネーター・PTA役員)
- ・新潟薬科大学(学長・副学長 他)・教育委員(2名)
- ・副市長・秋葉区役所(区長・課長 他)
- ・区内のコミュニティ協議会・自治協議会委員・CS委員
- ・まちづくりにかかわる個人や団体・新潟大学等の学生

7 参加状況 参加申し込み人数 127名

8 Akih a教育懇談会・参加者アンケート結果（回答人数：84名）

(1) あなたの立場を教えてください（複数ある場合はすべてにチェック）

立場	立場詳細	回答数	割合(%)	立場詳細	回答数	割合(%)
学校側	管理職	21	21.43%	地域教育コーディネーター	9	9.18%
	地域連携・防災担当職員	2	2.04%	その他（CS・教諭他）	4	4.08%
地域側	学校運営協議会委員	15	15.31%	コミュニティ協議会	18	18.37%
	自治協議会	8	8.16%	その他	0	0.00%
保護者	P T A	13	13.27%			
その他	行政	8	8.16%	学 生	0	0.00%
	上記のいずれでもない	0	0.00%			
回答合計 回答者84人（複数回答あり、回答数 98）					98	100.00%

(2) Akih a教育懇談会に参加されて満足でしたか

質 問	人 数	割合(%)	質 問	人 数	割合(%)
1・とても満足	39	46.43%	2・まあ満足	39	46.43%
3・やや不満足	4	4.76%	4・不満足	0	0.00%
5・未回答	2	2.38%	回 答 合 計	84	100.00%

(3) Akih a教育懇談会に参加して、あなたにとってどのような成果がありましたか

（複数回答可）

質 問 内 容	回答数	割合(%)
1・自分の意見を述べることができた	47	22.28%
2・他の人の意見を聞くことができた	69	32.70%
3・話す中で自分の考えを整理することができた	23	10.90%
4・どのように議論をすすめるのか、参考にすることができた	12	5.69%
5・テーマに対する知識やアイデアを得ることができた	31	14.69%
6・多くの人と交流することや話をすることができた	28	13.27%
7・その他（下記に、回答意見記載）	1	0.47%
回答合計 回答者84人（複数回答あり、回答数 211）	211	100.00%

上記質問で「7・その他」回答の意見

・地域の方との交流ができた。

4・テーマ「地域の未来を支える防災をどう創るか」について、具体的なアイデアを得ることができましたか

質 問	人 数	割合(%)	質 問	人 数	割合(%)
1・大いにそう思う	29	34.53%	2・おおむねそう思う	48	57.14%
3・あまり思わない	6	7.14%	4・思わない	0	0.00%
5・未回答	1	1.19%	回 答 合 計	84	100.00%

- 5・テーマ「地域の未来を支える防災をどう創るか」について、自分にもできることがあると思いませんか

質 問	人 数	割合(%)	質 問	人 数	割合(%)
1・大いにそう思う	30	35.72%	2・おおむねそう思う	49	58.33%
3・あまり思わない	3	3.57%	4・思わない	0	0.00%
5・未回答	2	2.38%	回 答 合 計	84	100.00%

- 6・来年度のA k i h a教育懇談会に取り入れたい内容や期待することは何ですか

(複数回答可)

質 問	回答数	割合(%)
さまざまな立場で教育に関わる者が集まって意見交流したい	42	29.79%
他校や他地区の地域学校協働活動や地域防災の事例について知りたい	38	26.95%
学校と地域が協働して課題解決する事例を知りたい	51	36.17%
その他・自由記述	10	7.09%
合 計 (複数回答あり、実際の人数より多い)	141	100.00%

上記質問で「その他・自由記述」回答の意見

- ・「主体性を持つ子どもを育てるためには」を学びたい。
- ・懇談会後の実行をどうするか？ここを進めないとダメ。
- ・大人だけでなく、児童・生徒も参加する形をぜひ。
- ・「地域とともにある学校」の先進事例の紹介。
- ・小・中・高・大学生の出席できるテーマを希望します。彼らの意見が反映される会の開催を希望します。
- ・若い世代（これから義務教育の子をもつ親）の声。企業(起業も含む)や移住者からみた教育への提言。
- ・家庭の経済状況により、子どもの体験に格差があり、その事が子どもの成長に影響を及ぼすといわれています。秋葉区ではそのような状況があるのでしょうか。あるとすれば、どのような取り組みを考えていけばよいのでしょうか。
- ・子ども達も参加した内容を検討してほしい。教育の当事者の子ども達の話を知りたい。
- ・地域が学校に求めること。
- ・各地域・コミュニティ協議会・学校・会社等において、防災教育を必修としたながれをつくる提案をしたい。

- 7・A k i h a教育懇談会についての感想など、ご自由にお書きください

- ・地域の未来を支える防災をどう創るかを考えたので次は実践ですね。内容を広く発信共有して欲しい。設営お疲れ様でした。
- ・地域同志の連携も視野に。オールA k i h a・オールN i i g a t aの意識を。
- ・関係者の交流ができる良い機会となりました。
- ・今年で10年続いている会です、毎年のテーマを強化させて継続してください。
- ・防災の取り組みは、テーマとして難しかったです。
- ・未来像は幅広い内容により、まとめるのが難しかったです。

- ・話し合った内容の中で行政としてできること、学校・地域でできること、連携して行うことが必要なことなどを整理して、それぞれが少しでも取り組み、解決できたらよいです。
- ・小・中・高・大学生の連携組織の分科会等のできることを期待する。
- ・最後の発表とまとめに関して、だいぶ雑な内容でした。
- ・毎年、楽しみにしています。
- ・組み合わせがよいグループで普段話さない人とお話ができ、楽しく深まりました。運営等、ありがとうございました。
- ・スムーズな進行、わかりやすい発表、自由に述べられる環境、とても良かったです。同じ意識を持った方々の集まりなので、情報交換(雑談)が有意義でした。
- ・普段、防災に対する危機意識が低かったので、勉強になった。防災訓練は大事なんだと思いました。
- ・立場で話すことと個人の行動について話すことは、やはり違うものだった。本音も聞くことができて良かった。
- ・初参加でした、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・いつも勉強になります、ありがたいです。
- ・(防災・教育懇談会)に気軽に参加できる会を、年間事業として、回数を増やすと良いと思う。
- ・貴重な機会をつくって頂きありがとうございました。防災への関心を高めることができました。
- ・防災について、もっと時間をとってほしかった。
- ・多くの方が集まって議論できる場は貴重と思います。
- ・今回のように1グループ4人ぐらいが話し合いやすかった。
- ・地域活動を知ることができ、とてもためになりました。他人事ではなく、自分事として捉え考えることができて良かった。
- ・年に複数回開催をした方が、よりいろいろなことに意識が行くので良いと思う。
- ・違う立場から一つの課題に対して意見交換することで、新たに発見や考え方に触れることができ、とても有意義な会でした。
- ・時代に合ったテーマ(防災)で、良かったです。小新中学の取り組み紹介も良かったです。
- ・ありがとうございました。防災教育推進に関する予算があれば教えて頂きたいです。
- ・とても有意義な会で勉強させていただきました。来年も楽しみにしています。
- ・グループワークで話すとおつという間の時間でした。いろいろな方のお話を聞いて楽しかった。
- ・貴重な機会で、とても利のあるグループワークができました。今後活かしていければと思います。
- ・参加して良かったです。
- ・小新中学・校長先生の防災とロボットの相性が良いことが勉強になりました。
- ・様々な事例を紹介して頂き、大変参考になりました。
- ・いろいろな立場の方と共通の課題でお話しすることができて有意義でした。

- ・今後とも同様の機会を継続されますよう、祈念申し上げます。特に環境や防災をキーのテーマにしての展開は、意義深く懇談会の意義を実感しました。
- ・第二小学校の事例、地元に住んでいても知らないことがありました。
- ・様々な立場の方の意見を聞くことができ、有意義だった。
- ・とても貴重なお話をたくさん聞くことができました。ありがとうございました。
- ・小新中学の発表が、防災とロボットをテーマにしており、これからの時代を考える参考となつてとても良かった。
- ・初めて参加しました。とても有意義な教育懇談会でした。ありがとうございました。
- ・他校・他地域の保護者や地域の方と親しく話ができありがたいです。いろいろ勉強になることがありました。
- ・いろいろな話を聞くことができよかったです。PTAの役職でないと呼ばれることがなかったので、一般の人でも参加できればいいなと思う。
- ・防災を人任せでいた様に思います。実際に自分の身に起こるという意識をもって様々な情報にしっかり耳を傾け、意識をしっかり持つことでいざという時に行動できる様にしていきたいと考える、良い時間をありがとうございました。
- ・地域防災の未来像の意味がはっきりしなかった。話し合いのながれとして、もう少し未来の意味を、金子さんのイメージで話してほしかった。

第1部

区長報告

地域学校連携協働活動発表資料



令和6年度 Akha教育懇談会 区長報告

『 R6 秋葉区方針： 災害に強く、こども真ん中の 秋葉区づくり 』

2024年 8月 23日（金）
秋葉区長 長崎忍

I. 災害に強く

あきはSDG'sトライ 2024/4/21(日) 秋葉区一斉クリーン作戦実施

- 〔背景〕○ 雪解け後の除雪ゴミが、側溝・排水溝に集積する
⇒ ゲリラ豪雨発生時の溢水リスクを高める要因に
- 4月後半からの出水期(田の水張り、梅雨・台風)前に除去
 - 農作業が繁忙期に入ると、農業者がクリーン作戦に出られない
- 〔目的〕○ 地域のゴミ除去と美観・景観の整備
- 子ども達と大人の協働作業により、地域の危険箇所を点検し知る
 - 国連SDG'sに絡めた取り組みにより、気候変動などを知る
- 〔効果〕○ 参加者: 6,960人 (R5: 5,865人) +1,095人(19%増)
- ゴミ量: 3,570kg (R5: 3,310kg) + 260kg(8%増)
- 〔今後〕○ 9月～11月 あきはSDG'sトライ
11/3「新津川クリーン作戦」
11/3「新津川水仙球根植栽」
上記前後の週(予)「秋葉公園クリーン作戦 + つるきり隊」



2024/6/16(日) 秋葉区一斉防災訓練

- 〔背景〕○ 2024年は、新潟地震発生60年・中越地震発生20年
⇒ 7・13水害発生20年、1月1日能登半島地震発生から半年
- 2023年1月の水道管凍結時、コミ協・自治会への連絡網機能せず
⇒ 広報車・FMにいつ等で周知するも、区への苦情電話が多数
⇒ 区役所からコミ協～自治会への伝達系統が未整備による
- 〔課題〕○ 自治会の規模(構成する世帯数)・活動に大差
⇒ 区内自治会における平均世帯数165世帯
… 最大956世帯、最小8世帯(世帯数/1自治会)
- 〔目的〕○ 緊急危機情報の伝達方法の整備
⇒ 害獣(クマ・イノシシ)、不審者、災害発生時の避難指示
- 〔今後〕○ 今年度の実施を検証して、来年度開催に向けて内容を検討中
- 「回覧板のデジタル化」勉強会を区役所とコミ協・自治会で開催へ
⇒ 自治会役員の負担軽減
・ 回覧・配布物の削減(脱炭素に貢献)
・ 緊急危機情報の伝達手段への活用も検討する



Ⅱ .こども真ん中… R5地域コミュニティの未来ビジョンワークショップで こども達(小中高大学生)から多くの発言が出た2取組み

こどもの居場所

- 〔背景〕○市内8区で唯一「児童館」が無い
⇒ 家庭・学校に次ぐ、第3の居場所が求められている
- ボールを使って遊べる公園が無い
 - 中高生が自習できる場所が少ない
⇒ 図書館、文化会館などに有り、コミュニティ施設には少数有り
- 〔取組み〕○地域コミュニティの未来ビジョンでアクションプランが規定され、現在、実現に向けて各コミ協で検討中
⇒ 主にコミュニティセンターでの開設を模索中
- 区自治協議会内に「居場所づくり部会」が設けられ、各コミ協の取り組みをサポートする
 - 区役所が先行モデルとして、新津地域交流センター1F・2Fの居場所づくりを新津中央コミュニティ協議会・自治協議会と共に開設をサポート。 ※下段の写真参照
⇒ 新津高校・新津第一中学校協力で、7月25日オープン
- 〔今後〕○各コミ協の「居場所づくり」をサポート予定
9/8 金津コミ協未来ビジョン「居場所づくり」をサポートへ



区内を移動しやすく(路線バスの利便性向上)

- 〔経緯〕○R5/9/22自治協議会第二部会が公共交通(路線バス)勉強会を開催。金津コミ協が住民主体での路線バス金津線の見直しを着手。
- R5/11/24新津第五中「中学生と区長との地域の未来を語る会」で、生徒会役員が路線バス(下新線)のルート見直しを提案
⇒ オブザーバー出席の新関コミ協会長が早速見直しに着手
- 〔取組み〕○区地域総務課が未来ビジョンの中学生発言への対応を予算化
⇒ R6ワンコインバス(中学生以上100円小学生50円)事業化
- 〔目的〕○こどもの意見を施策に反映し、実現する(R6ワンコインバス)
⇒ 路線バス利用者の増、自動車交通の渋滞緩和・脱炭素に寄与
- 中高生の部活練習や大会時利用をさらに促進へ
⇒ 文化会館、総合体育館、地域学園弓道場へ徒歩で行く中高生
- 〔今後〕○R7以降の中学校部活動の地域移行で、他中学校への移動利用へ

R6 秋葉区内路線バス 乗車人数比較表

路線	R5.4	R6.4	R6.4/R5.4 増減	R5.5	R6.5	R6.5/R5.5 増減	R5.6	R6.6	R6.6/R5.6 増減	小学生 乗車人数 R5.6	R5.7	R6.7	R6.7/R5.7 増減	小学生 乗車人数 R5.7
下新線	592	678	115%	596	808	136%	612	842	138%	128	528	823	156%	126
金津線	139	182	131%	162	201	124%	166	270	163%	100	154	177	115%	68
区バス	2,381	2,394	101%	2,668	2,849	107%	2,444	3,751	153%	107	2,472	2,626	106%	100
合計	3,112	3,254	105%	3,426	3,858	113%	3,222	4,863	151%	335	3,154	3,626	115%	294

↳ ワンコインバス・スタート

今後の長崎妄想案「災害に強く、こども真ん中の秋葉区づくり」

案Ⅰ. 災害に強く 〔安全・安心を確保する〕

- 〔検討中〕① 空き家バンク
⇒ 不動産関係機関と区が連携し、移住相談窓口で事業化へ
⇒ 移住コンシェルジュが空き家相談・困りごとに対応する
- ② 新津駅西口のJR用地(現在は借地として道路使用)を市道化して市道下興野程島線(区役所～ウオロク間)の代替路線化へ
⇒ 路線バス金津線を文化会館経由新津駅西口に廻し、ウオロク裏の医療ゾーンまで延伸、更に荻川地区まで、...



- ③ 阿賀野川沿いに国土交通省河川防災ステーションを誘致する
⇒ 信濃川左岸には2002年に南区赤洗地区に、右岸には2023年に江南区天野地区に、中流域は2014年に三条地区に国と市町村により設置済み。
⇒ 阿賀野川には、2004年右岸の京ヶ瀬地区に設置済みで、左岸の秋葉区側(早出川合流の金屋地区が適地)に必要。
… 防災ヘリの発着場、河川増水時の水防団待機場所に
- ④ 秋葉区役所周辺地区を災害・防災拠点化すべく、停電時に機能する蓄電池等を国の脱炭素先行地域の取組みで整備へ
⇒ コミ協(小中学校区)単位での災害・防災拠点化を検討へ
(案)満日地区は福祉施設が集積する「癒しの福祉ゾーン」に

案Ⅱ. こども真ん中 〔未来への展望の創出〕

- 〔検討中〕① 出張児童館の試行実施(北区で試行実施中 ※下写真参照)
⇒ 秋葉区は、市内8区で唯一「児童館」が無いため、既存の公共施設等を活用し、有資格者が向いて様々な遊びや学びを提供することで、こどもの居場所づくりを推進する
⇒ 実施エリア:金津コミ協地区
… 県内・市外から、子育て目的の移住者が多数のため



- ② 中学校部活の地域移行
⇒ 小合・小須戸・金津中部活を新津一中合同で(主に文化系)
⇒ ワンコインバスで一中へ(金津線の新津駅西口ルートで)
- ③ 小中学校プール授業をB&G海洋センターで一元実施へ
⇒ プールの管理運営を指定管理者(専門スタッフ)により実施
プール跡地を駐車場や仮設校舎・校庭として活用する
… 教職員・PTAの負担軽減と既存施設の有効活用 !!
- ④ 健康センターの一部に、「仮称こどもセンター」設置の検討
⇒ 「新津育ちの森」が0歳児から小学2年生まで対象のため、小学校3年生以上のための居場所開設を検討します。
(案)自習・学習スペース、本・マンガなどの読書スペース
ダンスなどの体を動かす機会の創出や子どもたち自らが企画するなど、子ども中心の事業内容が実現できるセンターを検討します
(参考:石巻子どもセンター)
- ⑤ 秋葉公園リニューアル … 昭和式から令和・未来型へ
⇒ 指定管理(パークPFI)導入や小中高大学生の声を反映へ

令和6年度 アキハ人材育成事業・Akiha教育懇談会

新津川おかえり☆灯り ぷろじえくと

アートでつなぐ、学校と地域の連携

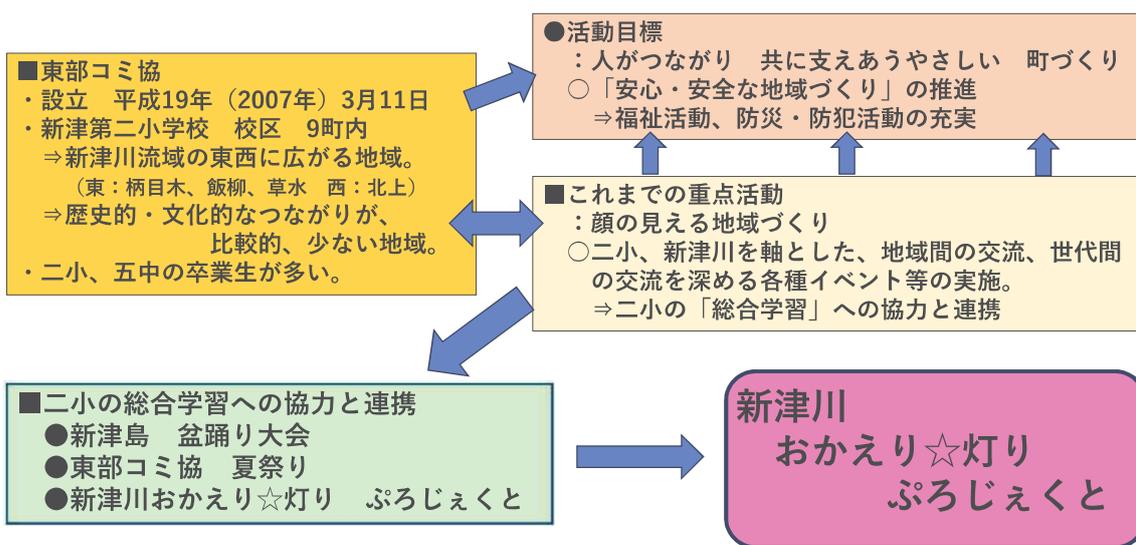


新津川：サケの稚魚放流



新津東部コミュニティ協議会 総務部 渡邊

●新津東部コミュニティ協議会(東部コミ協)の活動目標と重点活動



新津川おかえり☆灯り ぷろじえくと



- 新津第二小学校
文化祭と同日開催
⇒教職員との連携の確保
- 体育館に子どもたちが作成した各種の「灯ろう」を配置
- 体育館を暗幕で、暗転
⇒非日常的な空間の創出
- 地域の人々が、二小に
足を運ぶ「きっかけ」を提供

■灯ろうの幻想的な「灯り」で、体育館を彩る1日限りのイベント

●新津第二小学校の「総合学習」実践の中から生まれた奇跡

- 能代川・新津川
⇒石油の町を流れる
「暴れ川」＝「九十九曲川」
*昭和58年（1983年）の河川改修
工事により水害の危険性は軽減。
*市街地を流れる部分が
「新津川」として誕生。
- 能代川
⇒はるか昔は、能代川でも多くの
サケが遡上していた。



「九十九曲川・石油の町の川」
から、再び
「サケが遡上する川」へ

- 二小の「新津川への取り組み」
- ・平成6年（1994年）から「サケの稚魚」を放流。
- ・平成12年（2000年）から「地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域の人と共に学ぶ」総合学習で、能代川・新津川をテーマに活動。
- ・平成19年（2007年）から「新津川水仙物語」と協力し、「スイセンの植樹」を開始。
- ・平成20年（2008年）の「第28回全国豊かな海づくり大会」の作文コンクールで、児童が「大会会長賞」を受賞。
*子どもたちの発案で「新津川クリーン作戦」を実践。
*新潟薬科大学の協力で水質調査や水質改善のために川に炭を入れて浄化する活動も行う。
- ・平成22年（2010年）11月新津川への「サケの遡上」が久しぶりに確認される。
- ・平成28年（2016年）11月にも「サケの遡上」を確認。
⇒新潟地域振興局 新津地域整備局が公式に発信。
- ・令和元年（2019年）公益社団法人 日本河川協会の「河川功労者賞」を二小が受賞。

●全国豊かな海づくり大会 作文コンクール 大会会長賞受賞のインパクト

■受賞によるインパクト

- 二小と地域による新津川への活動が注目された。
- 新津川に「サケが遡上」する可能性が再認識された。
- 子どもたちの声や行動が、地域、大人たちへの活動の輪を広げる契機となった。



地域・行政を動かした。

■新津川への環境整備、愛護活動の推進

- ・平成22年（2010年）11月 新津川へのサケ遡上
- ・平成28年（2016年）11月 新津川へのサケ遡上
- * 新津地域整備局が公式に発信している。
- ・新津川「水仙ロード」、「桜を観る会」
- ・令和3年：新津川「伐木・河床掘削工事」実施
- ・令和3年：「水位を上げる工事」の実施
- 児童の手紙により、県が新津川の水位を上げる工事を行った。
- ・令和4年：児童デザインの河川愛護看板の設置

■第28回 全国豊かな海づくり大会

作文コンクール（小学校高学年の部）大会会長賞を受賞

●受賞作文

「川や海の環境を守るとは」

新津第二小学校6年 中静 佳奈さん

●受賞作文の内容

- ・自分たちが放流したサケが無事に戻って来るかを心配した子どもたちが新潟薬科大学の協力を得て、水質調査を行った時に、「サケが戻って来ても生きていけない川」との残酷な宣告をされるが、あきらめることなく「サケの稚魚」のために川をきれいにする「ゴミ拾い」を行う「新津川クリーン作戦」を考え、行います。
- 第1回目の終了時に1人の児童がつぶやいた「新津川のゴミはまだなくなっていない。また、ゴミ拾いをしようよ」との言葉に応え、翌年には、下級生、地域の人も巻き込んで、第2回を行う様子をまとめたもの。

この時の子どもたちの決断・行動が今につながっている。

●「新津川おかえり☆灯り ぷろじェくと」が、なぜ生まれたのか？

・令和元年（2019年）に新津第二小学校の校長として、赴任された渡辺富美子先生が、「河川功労賞」の受賞を受けて、児童や地域の方々に、これまでの活動への感謝を伝えるとともに、芸術・アートを活用し、行いたいと考えたのが「新津川おかえり☆灯り ぷろじェくと」です。

サケの稚魚たちが
広い海で大きくなって
この町に帰ってきますように・・・

子どもたちが
広い世界で大きくなって
この町に帰ってきますように・・・

二つの願いが込められています。

4年生 12月上旬

- ・卵の孵化、稚魚の飼育
- 能代川サケ・マス増殖組合さんからサケの卵を頂き、二小で孵化させ、子どもたちが育てている。



4年生 3月上旬

- ・稚魚の放流
- 二小で育てた稚魚に加え、能代川サケ・マス増殖組合さんが提供して下さる約2万匹の稚魚を子どもたちが新津川に放流。

●通常、放流した稚魚は、3～4年後に遡上。

⇒自分で放流したサケに再会できるのは、
中学1年か2年生の時になります。

* 新津第五中学生への「参加理由」

■「新津川おかえり☆灯り ぷろじェくと」の特徴

1. 幼稚園・保育園、小学校、中学校、大学とPTA、地域（コミ協）が協働で開催。
 - ・第1回は、秋葉区自治協議会の提案事業として開催されたこともあり、新津東部コミ協が、主催者となり、秋葉区自治協議会、二小PTA、二小、新津第五中学校美術部と協働で行いました。
 - ・第2回からは、新潟市秋葉区地域活動補助事業として、東部コミ協、二小PTA、二小が主催して、周辺の幼稚園・保育園にも参加を呼びかけ、新潟大学教育学部美術館の丹治嘉彦先生、橋本 学先生に総合監修をお願いして開催しています。
- *幼保・小・中、大学が連携して開催していることが1番目の特徴。**

- 「竹灯ろう」：ws参加者
- 「紙灯ろう」：1・2年生、幼児園児
- 「コップ灯ろう」：3年生
- 「枝灯ろう」：4年生
- 「大型回転灯ろう」：4年生
- 「大きな生き物かべ灯ろう」：第二幼稚園児、3年生
- 「箱灯ろう」：5年生
- 「吊るし灯ろう」：5年生、保護者
- 「泡灯ろう」：6年生
- 「サケねぶた灯ろう」：五中美術部6年生
- 「かべ灯ろう」：五中美術部



2. 本物のアーティストと子どもたちが、触れ合いながら作品を制作。

○新潟大学 丹治先生、橋本先生

新津第五中学校 美術部顧問 星先生

- ・「サケねぶた灯ろう」、「ミニサケ灯ろう」の設計・監修を担当。
- ・骨組みの作成と和紙の貼り付けを行った、新津五中美術部への指導も担当。
- ・当日の会場の作品展示を行ったPTAや地域のボランティアへの指導も担当。

○彫刻家 原田哲男さん（二小、五中の卒業生）

- ・第1回のアーティストとして招聘。

新津第二小学校の体育館のステージ上や新津図書館裏の「新津河川公園」で、3基の大型竹灯ろうの公開制作と「竹灯ろう」づくりのWSの指導を担当。

- *「大型竹灯ろう」の制作、「竹灯ろう」の下準備は、五中美術部も協力。

○絵本作家 荒井良二さん

- ・IIのアーティストとして招聘。

4年生の「大型回転灯ろう」の制作をオンラインで指導。放流したサケの稚魚が、海で苦勞を重ねながら、大きくなっていく冒険物語を6人のグループで、縦1.2m、横2mの紙に話し合いながら描いた。

荒井さんの作品も当日展示させて頂いた。

○新潟大学 柳沼宏寿さん

- ・二小の先生方への、LED電球を使った「箱灯ろうづくりWS」の指導を担当。
- ・指導を受けた先生方が児童に指導して「箱灯ろう」を制作した。

○日本画家 長沢 明さん

- ・III、IVのアーティストとして招聘。

- ・「大きな生き物かべ灯ろう」を担当。

2m×5mの大きな紙に、子どもたちが自由に、様々な色付けを行い、その後、みんなで話し合いを行い、色模様の中に隠れている大きな生き物を探し出し、その輪郭を長沢さんが描き、最後に、子ども代表が目を入れて完成させる。完成した紙を壁に張り出し、裏側からライトアップを行い、灯ろうに見立てる。

○舞踊家 土田貴好さん、小倉藍歌さん

：NEphRITE（ねぶらいと）

- ・III、IV、5のダンスパフォーマンスダンサーとして招聘。

点灯式の後で、ジャズピアノ演奏にあわせて、コンテンポラリーダンスを披露。

○ピアノ演奏 本田和彦さん

- ：秋葉区教育支援センター 指導主事（当時）

- ・高校時代からジャズにはまったピアニスト

○ダンサー衣装製作 伊藤明美さん：二小PTA会長

- ・二小6年生がデザインした、ダンサー衣装の製作を担当。

■多様なアーティストの参画

- 前二小校長、渡辺富美子先生の人脈の功績。
- 第17回 新潟教育アート展 造形活動部門でグランプリを受賞。

■「新津川おかえり☆灯り ぷろじぇくと」の継続に向けて

■子どもたちの声・評価：下校時のある児童同士の会話より

- A：「二小にも誇れるイベントが出来てよかったね！」
- B：「ねえ おかえり☆灯りが、いつまで続くといいと思う?！」
- C：「う～ん! 百年!!」



■継続に向けての懸念

- 渡辺富美子校長が、令和4年度で退任されることになり、継続が危ぶまれた。
- ⇒二小としての方針は?
- ⇒入れ替わる先生方への対応は?
- ⇒二小、二小PTA、東部コミ協の連携は?

- 渡辺富美子先生が、退任後も実行委員会に参加してくれることを表明される。

■継続につながる動き

- 学校運営協議会での評価（CS）
⇒おかえり☆灯りへの評価は高く、継続に前向きな意見が多く出された。
- 地域・東部コミ協の反応
⇒東部コミ協での評価も高く、地域からも、この「ぷろじぇくと」への協力の声が聞かれた。
- 秋葉区からの支援
⇒教育支援センターの主催で、「おかえり☆灯り」を継続するためのWSが開催された。
⇒継続するための実行委員会が結成される。

- 新津川おかえり☆灯り ぷろじぇくと5を開催・風間新校長体制の下、何とか開催することが、できました。
令和5年（2023年）10月29日（日）開催。

- 開催回数の表記について
これまで、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと表記してきましたが、子どもたちの声に応え、10年、100年 継続することを願い、アラビア数字に変更しました。

■これまで参画してくれたアーティストの方々はじめ、協力頂いた全ての皆さんに感謝いたします。



総合監修
新潟大学
丹治先生
橋本先生



彫刻家
原田哲男さん
二小・五中卒業生
第1回 灯り



秋葉区でアートする舞踊団
土田貴好さん、小倉藍歌さん
NephriTED dance company
(ねふらいと)



ピアノ演奏
本田和彦さん
秋葉区教育支援センター
主事（当時）
○高校時代からジャズに
はまったピアニスト



絵本作家
荒井良二さん
オンライン講師
灯りⅡ



子どもたちが
アーティスト
と協働制作



日本画家
長沢 明さん
灯りⅢ、Ⅳ

ダンス
パフォーマンスチーム
灯り Ⅲ、Ⅳ、5



衣装審査と制作を担当
伊藤明美さん
二小PTA会長
二小学校運営協議会委員

衣装デザインとナレーションは、
二小の6年生が担当。

■「新津川おかえり☆灯りぷろじぇくと6」
開催準備中!!

- 令和6年（2024年）10月27日（日）開催予定
*皆様のご協力とご来場をお待ちしております。

■継続に向けての夢・妄想

- ・16年前の2008年に、残酷な宣告を受けてもあきらめることなく、自ら活動を発案し行動した子どもたち。
- 今、28歳位と思うので、後、5~10年位で、灯りを支えてくれる頼もしいメンバーになってくれると妄想しています。

●ご清聴 ありがとうございます。



新津東部コミュニティ協議会って 何をしているか知っていますか？



設立の経緯

平成19年3月11日に、新津東部コミュニティ協議会は、新津第二小学校区内の9町内（15自治・町内会）が集まり設立されました。

他地域と比べ地勢的・歴史的に関係が少なかった地域ですが、新津川と第二小学校を軸に、地域間の関係づくりや世代間交流を進め、「顔の見える地域づくり」を目標に活動を行っています。

東部コミ協のシンボルマークは、こうした想いを込めて作成され、設立当初から、コミ協だよりや各種印刷物、イベント等にも活用されています。

これまでの歩み

令和4年で16年目に入りました。
これからもよろしくお願ひします。

安心・安全な地域づくりを行う上で大切な「顔の見える関係」を構築するために、様々な活動・行事・イベント等を皆さんと一緒にしてきました。

設立 平成19年3月11日（H18年度）
事務所 平成24年4月
開設 新津地区勤労青少年ホーム内

- 新津第二小学校との連携
 - 総合学習への協力
 - 新津川美化活動・鮭の稚魚放流
 - 子どもたちの居場所づくり
 - ・新津島盆踊り大会（平成19年、20年）
 - ・新津東部文化展（平成20年～）
 - ・夏休みわくわく講座（平成20年～）
 - ・子どもの遊び場（平成26年～）
 - ・新津川おかえり☆灯りふるじえくと（令和元年～）
二小文化祭に併せて、体育館で開催

- 地域を知り、地域の連携を深める
 - ・東部地区「町内を知る会」（平成19年）
 - ・東部散策マップ作成（平成27年）
 - ・散策マップめぐり開催（平成27年）
- 地域の宝物をみんなで楽しむイベント
 - ・さくらフェスティバル in一之堰（平成25年）
 - ・東部コミ協フェスティバル in文化会館（平成26年）
 - ・講演会「出会いはふれあい」（平成27年3月）
秋葉区在住のイラストレーター木原さんの講演会

- 子どもから大人までが一緒に楽しめるイベント
 - ・東部コミ協 夏祭り（平成27年～令和元年）
二小体育館を会場に、盆踊り、ゲーム屋台等を中心とした「夏祭り」を開催。
地域の皆さんと二小6年生、五中生徒会有志の皆さんと一緒に運営に協力。
ステージイベントで五中吹奏楽部も演奏。

- 健康寿命を延ばすための取り組み
 - ・ふれあい健康づくりの集い（平成19年～）
 - ・ふれあいウォーク（平成22年～）
 - ・新津川遊歩道健康ウォーク（令和3年～）
- 安心な地域づくり
 - ・緊急キットの配布（平成25年～）
 - ・支えあいの仕組みづくりの推進（平成27年～）
- 防災対策の検討
 - ・自主防災連絡会の設立（平成30年～）

顔の見える地域づくり

活動報告

● 新津島 盆踊り大会



二小のグラウンドに草水町の「祭り櫓」を設置し、盆踊りを開催。

(H19, 20)

● ふれあいウォーク



観光バスで少し遠出し、散策や軽い運動を行うイベント。(H22～)

町内の代表の方から各町内の町名の由来や町内の特徴、自慢できる事についてお話を伺う会を開催。(H19)

● 町内を知る会



● さくらフェスティバル in 一之堰



分流記念公園・一之堰の桜の下で芸能大会を開催。(H25)

● 東部コミ協 夏祭り



二小体育館に祭り櫓を設置し、盆踊り大会を開催。(H27～)

● 新津川おかえり☆灯り ぶるびんくと



児童が新津川に放流した「サケの稚魚」が、成長して帰ってくることを願って行うイベント。(R1～)

これからの取組:「安心・安全な地域づくり」のために

福祉

これからは、子どもや高齢者、障害を持つ人たちははじめ誰にとっても暮らしやすい地域づくりを検討することが重要となります。

これまでのコミ協活動を通して、作り上げてきた「顔の見える地域づくり」を基盤として、今後は、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けての具体的な活動をさらに進めて行ければと考えておりますので宜しくお願い致します。

今後に向けて

東部コミ協は、当初から「人がつながり 共に支えあうやさしい 町づくり」を目標に活動し、特にこれまでの15年間は、各種のイベント等を通じ、世代・地域を超えた皆様の中で個人的に「顔の見える関係」を作ることで、「顔の見える地域づくり」に向けて、一定の成果を上げることが出来たと感じております。

16年目に入った今年度からは、この「顔の見える地域づくり」の成果を基盤として、さらに多くの皆様方のご協力を頂きながら、「安心・安全な地域づくり」というさらに難しく、大切な課題に向かって進んで行ければと考えておりますので、これまで以上のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

新津東部コミュニティ協議会

会長 斎藤 龍秋

防災

最近の災害の発生状況等を考えると、早急に、具体的な被災時の対応策の検討を行うことが不可欠となっております。

東部コミ協では、こうした課題を解決するために、自主防災連絡会を設立して、地域内の防災に関する各種調査、検討作業等を行ってきました。

今後は、地域の主な避難所となる二小の避難所の運営体制等の検討を行ってまいります。

● 新津東部コミュニティ協議会だより 特別号 I ●

● 発行者: 新津東部コミュニティ協議会

● 発行日: 令和4年11月1日

● 発行人: 斎藤 龍秋

● 事務局: 新潟市秋葉区新津東町1丁目5番12号 新津地区勤労青少年ホーム内 TEL・FAX 0250-23-0780

● 編集: 新津東部コミュニティ協議会 総務部

● 印刷: ㈱トヨービジネス



能代川・新津川と二小とサケと自然とみんなの力と

「九十九曲川・石油の町の川」から「サケが遡上する川」へ

新津東部コミ協 総務部

能代川は、「九十九曲川」と呼ばれた「暴れ川」で、水害を起こすことの多い川でしたが、昭和58年（1983年）に完成した「河川改修工事」により、分流ができ、市街地を流れる部分が「新津川」として誕生しました。

水害の危険性は大幅に少なくなり、遊歩道等も整備され新津川は「暴れ川」から、「自然に親しむ川」となる可能性も考えられましたが、地域では、石油の町を流れる川で、ところどころに油が浮いている「油川」として認識されていました。

そんな中、平成6年（1994年）に新津第二小学校が、環境教育の一環として新津川への「サケの稚魚」の放流をはじめ、その後、平成12年（2000年）から段階的に始まった総合学習では、「地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域の人と共に学ぶ」理念のもと、様々な学習を展開しており、その中で、新津川への「サケの稚魚」の放流とそれに不随して、稚魚が元気に帰って来ることを願った「新津川クリーン作戦」が発案され、現在も継続されています。

この「新津川クリーン作戦」の始まりをまとめた作文が、平成20年（2008年）9月に新潟市で開催された「第28回全国豊かな海づくり大会」の作文コンクールで、大会会長賞を受賞し、平成天皇后陛下下のご臨席

の下、作文を書いた6年生の中静さんが、作文を発表しました。

内容は、サケが無事に戻って来るかを心配した子どもたちが、新潟薬科大学の協力を得て水質調査を行った時に、「サケが戻って来ても生きていけない川」との残酷な宣告をされるが、あきらめることなく「サケの稚魚」のために川をきれいにする「新津川のゴミ拾い」を行う「新津川クリーン作戦」を考え、行う様子をまとめたものです。

1回目終了した時に、1人の児童がつぶやいた「新津川のゴミはまだなくなっていない。また、ゴミ拾いをしようよ」との言葉に答え、翌年には、第2回を地域の方々も巻き込んで、一緒に行います。

そして、この子どもたちの姿に感動した地域の大人たちが、行政の協力も得ながら、新津第二小学校と共に、新津川の環境改善活動の輪を広げる事で、8年後の平成28年に「サケの遡上」が確認されるまでになりました。

こうした長い二小と地域の「河川愛護」活動が認められ、令和元年（2019年）には、「河川功労者表彰」を受賞することができました。

新津川は「サケが遡上する川」になりました。

●能代川・新津川

- ・水害を起こす暴れ川
「九十九曲川」(くじゅうくまがりがわ)
- ・石油を運ぶ、油が浮いた川
「石油の町を流れる川」

●二小の「新津川への取り組み」

- ・平成6年から「サケの稚魚」放流。
- ・平成12年からは、「地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域の人と共に学ぶ」、総合学習の中で、能代川・新津川をテーマに活動。
- ・平成20年9月7日「第28回全国豊かな海づくり大会」の作文コンクールで、大会会長賞を二小の児童が受賞した。
- ・平成19年からは、「新津川水仙物語」と協力し堤防に「スイセンの植樹」を開始。
- 平成28年11月「サケの遡上」を確認。
- 令和元年（2019年）公益社団法人 日本河川協会の「河川功労者賞」に二小が選出される。

●能代川・新津川への環境整備等の動き

- ・昭和58年（1983年）の「河川改修工事」により、新津川が誕生。
(水害の危険性が大幅に減少した。)
- ・新津川「水仙ロード」、「桜を観る会」
- ・令和3年に新津川「伐木・河床掘削工事」
- ・令和3年「水位を上げる工事」の実施
児童の手紙により、県が、新津川の水位を上げる工事を行った。
- ・児童がデザインした「看板」の設置
令和4年（2022年）2月
児童が「きれいな新津川」への想いを込めてデザインした看板が設置された。

新津川を地域の誇りに

**第28回 全国豊かな海づくり大会
作文コンクール(小学校高学年の部)
大会会長賞受賞作文**

川や海の環境を守るとは

新津第二小学校六年 中静 佳奈

私が学んでいる学校の校区には、「新津川」という一級河川が流れている。

その新津川に、一年前の三月二十六日に、私たち四年生は、となり町五泉市の能代川サケ・マス増殖組合から、サケの稚魚二万尾をいただいて放流した。

四月、私たちは、五年生に進級した。さっそく、総合学習の時間に、サケの生態について調べた。

その結果、サケという魚は川底から水が湧き出るようなきれいな水質の川でないと戻ってきて産卵をしないということが分かった。能代川サケ・マス増殖組合の方が「川の水がよければ」と言っていたのは本当だったのだ。

新津川は、だいじょうぶか、新津川にサケが戻って来るだろうか、心配になってきた。

心配に思ったのは、私だけではない。四月の学年集会で、「新津川の水質調査をやるよ。」という声が上がったのだ。私は、すぐに「賛成！」という声を上げた。驚いたことに、「反対！」という人は一人もいなかった。こんなことは初めてのことだ。みんなも放流したサケの稚魚が四年後に新津川に戻ってきてほしいと思っていたのだ。

私たちは、さっそく水質調査のた

めの計画を立てることにした。幸いにも近くに新潟薬科大学がある。大学に協力をお願いすると、「いいですよ。」という返事をいただいた。学生の方からボランティアの申し出もあった。

新津川水質調査は四か月間に及んだ。その結果は、『新津川の水質はともよできていて、サケが戻ってきても生きていけない』という残念なものであった。

残念だった。しかし、放流した二万尾のサケの稚魚のために、あきらめるわけにはいかない。何とかしなければ…。私たちは、せっぱつまつたような気持ちで新津川クリーン作戦に取り組みことを決めた。「新津川のゴミひろい」もその中の一つであった。

「新津川のゴミ拾い」は、十二月二日に行った。雪が舞う寒い日であったが、誰も文句を言う人はいなかった。五年生全員がいつしようにけんめいにゴミを拾い集めた。二時間後、拾い集めたゴミが山積みとなった。

「すごいゴミの山だ！」
「何でも捨てている。」
「誰が捨てたんだらう。」

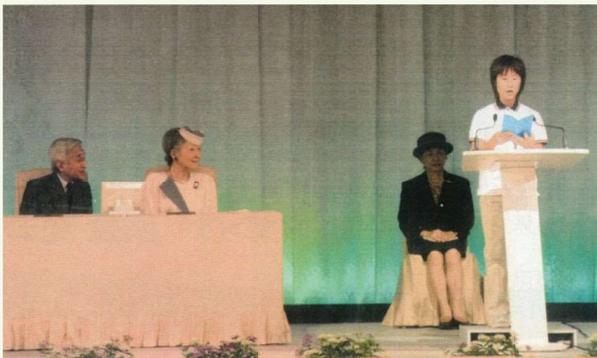
私もあまりのゴミの量の多さに驚いた。しかし、しばらくすると、体中におさえきれないほどの怒りが込み上げてきた。しかし、怒りをおさえて、私はかたくちかった。「私は、川にゴミを捨てるような人にはならないぞ。」

新津川から拾い集めたゴミを全員で手分けして学校に持ち帰った。その途中、ゴミを拾っていた時に、友達がつぶやいた言葉を思い出した。「新津川のゴミはまだなくなつて

いない。また、ゴミ拾いをしようよ。」
新年度を迎え、私たちは六年生になった。五月、私たちは、新五年生と力を合わせて第二回目の「新津川ゴミ拾い」を行った。今回は、保護者の方や地域の人たちが二十人くらい参加した。

私は、参加者の中に、「子供にまかせておいてよいのか。」と言っているのを聞いた。私たちの取組が地域の人たちの心を動かしたのだ。私はとてもうれしく思った。

新津川は、日本海とつながっている。そして、日本海は、世界の海とつながっている。このつながりは自然のつながりであると同時に命のつながりでもあると考える。私たちは、放流したサケの稚魚が、四年後、新津川に戻ってくる事ができるように、これからもゴミ拾い続ける。川や海の自然を守り、そこに住む全ての生物の命を守るために。



●平成20年9月7日 平成天皇皇后両陛下の前で中静さんが発表を行いました。

●残酷な宣言をされても、あきらめずに「川をきれいにする活動」を考え、実行した子どもたちの「熱い想いや行動」が、地域の人や行政も動かし「サケが遡上」する川となった原点なのかなと思っています。

●-新津島大盆踊り大会



新津島盆踊り大会：平成19年度、20年度
地域の伝統文化を受け継ぎたいという子どもたちの願いに応える形で開催された「新津島盆踊り大会」。この事業が、東部コミ協「夏祭り」にもつながっています。

●-東部コミ協-夏祭り



●-新津川おかえり☆灯り



●二小の総合学習を契機として、新津川が「サケが遡上」する川になったように、地域の歴史・文化を学び、それを大切にしたいという子どもたちの想いに応え、平成19年9月には、「新津島大盆踊り大会」が開催され、平成27年(2015年)には、「東部コミ協夏祭り」の中で、二小の体育館での「盆踊り」が、復活されました。その後、河川功労者表彰の受賞を受けて、「新津川おかえり☆灯りびるじえくと」が、開催されるなど、現在まで、二小と地域との「協働の絆」は、つながっています。

学校における防災教育の実際

新しい時代を考える小新中学校 保科賢一郎

東日本大震災以来、学校が防災の拠点となることが求められています。大きな災害が発生した場合、最初の3日間は、校長が中心となって、地域となんとか乗り切らなければいけないことになっています。

また、防災は教育として学習計画の中に位置付けなければいけません。学習内容は、地元で起こるであろう災害だけでなく、将来どこに住むかわからないので、津波や放射線災害についても学習します。

以上のようなことから、地域にとって、学校は防災の拠点として、とても頼りになる場所、安心できる場所として期待されています。

1 学校防災における3つのねらい

- (1) 災害時における地域の防災拠点となる。
- (2) 災害時に子どもたちが自分の判断で避難できるようにする。(大人になっても)
- (3) 地域と連携することで、学校への協力と理解を得る。

2 地域の防災拠点となる学校

- (1) 災害発生前：気象情報により台風・大雨の発生が予想される場合
 - ① 気象アプリなどで常に気象状況を確認する。
 - ・wethernews：一般的な天気予報（災害、体育祭、練習試合）
 - ・Yahoo：一般的な天気予報（災害、体育祭、練習試合）
 - ・NHK NEWS：緊急速報など（緊急地震速報、災害状況の正確な情報）
 - ・The WeatherChannel：シンプルで見やすい
 - ・Windy：主に風に特化した情報（ピンポイントで風速がわかる）
 - ② 状況の悪化が予想される場合、授業短縮や臨時休業を考え始める。
 - ・校区内の小中学校と連絡を取り合う（教頭）
 - ・近隣の小中学校の対応を参考にする（校長）
 - ・タブレットを各自が持っているので、オンライン授業に変更することも可能。
 - ③ 短縮授業、臨時休業などの一斉下校の措置をとる。
 - ・一斉配信メールで保護者に伝える。
 - ・給食を止める。(間に合う場合は) ※牛乳の業者が違う場合もある
 - ・教職員は通学路の巡視を行う。
 - ④ 気象状況によっては、学校で保護することもある。
 - ・天候が落ち着くまで、学校で待機することも考える。

(2) 災害発生時

ア 校外活動中

- ① 活動を中止し、帰校させる。
- ② 帰校できる状況でなければ近隣の避難できる場所に避難する。

イ 登下校中

- ① 学校にいる子どもの安全確認 → 教室待機、または体育館に集合
- ② 登下校途中の子どもの安全確認 → 可能であれば教職員が巡回
- ③ 各家庭に連絡し、安全を確認

ウ 夜間・休日の場合

- ① 4号配備（震度6弱、大津波警報、氾濫危険水位超）→全教職員参集
 - ② 3号配備（震度5強5弱、津波警報、氾濫危険水位増）→校長か教頭+職員2名
 - ③ 準3号配備（地域の状況による避難所開設指示）→校長か教頭、職員2名
- ※ いずれの場合も参集後、避難所開設員（近隣の行政職の方）と協力する。

学校に参集できない場合は、住まいの近くにある避難所の支援に行く、

エ 休業措置：教育委員会から指示あり

オ 避難所運営：大きな災害の場合は、職員を4班に分け、3交代で対応 ・最初の3日間を乗り切る。

(3) 避難所運営

ア 教職員の役割

- ① 校長：避難所の管理・運営に協力
- ② 教頭・教諭：避難所運営に協力
- ③ 養護教諭：学校医と連絡をとり、避難所の救護活動に協力
- ④ 事務職員：教育総務課と情報連携し、学校施設のライフラインを確保

イ 避難所使用教室等

- ① 使用可能：体育館、武道場（感染者用）、普通教室
 - ② 使用不可能：校長室、職員室、保健室、放送室、特別教室、図書室、給食室
- ※ 高齢者、障がい者、傷病者、妊産婦、乳幼児には良好な部屋を優先的に提供
※ ペットの避難場所も状況によっては準備する。

(4) 教育活動の再開：教育委員会や地域と相談しながらゆっくり考える。

3 防災教育（小新中学校の取組）

<総合的な学習の時間【小新クエスト】>ロボット・AIをテーマに3年間の学習を収束

1 学年	2 学年	3 学年
○防災（小新レスキュー） ○福祉（小新ウェルフェア）	○職場体験（小新ハローワーク） ○修学旅行（小新ジャーニー）	○ロボット（小新ロボット） 福祉支援ロボット・災害対応ロボット

(1) 1年生

1年生総合「小新レスキュー」

「小新ウェルフェア」

1年生では基本的な防災や福祉の基本を学びます。10月には福祉学習の成果の交流も行いました。写真は各班でプレゼンテーションの練習をしている授業の様子です。

2月には、小新小針包括支援センター様、済生会病院様による講演会を受講しました。福祉の学習を高齢者福祉に特化して学習することで、現代社会の問題を知ることができました。

防災の学習では、11月に元消防士を講師に心肺蘇生法を学びました。また、12月には新潟工業高等学校土木科の生徒による防災出前授業がありました。高校生が学校にやってきて、土木科で学んだ防災の知識をもとに授業を行いました。



(2) 2年生

2年生総合「小新ハローワーク」「小新ジャーニー」

2年生では、1年生で学んだことを基に、将来的な職業やキャリアの視点ももちながら、「人でないといけないこと」「人でなくてもできること」を観点に職場体験を行います。12月上旬には、長岡・燕・三条方面と関東圏への修学旅行でロボット・AIと職人の技に触れてきました。

○「新潟県防災教育プログラム～洪水編・津波編」を基に授業を構成（三条市水防学習館訪問予定）
○他教科との関わり【理科】【社会科】【国語科】

○パネリスト3名による発表

- ◆ 地震災害
- ◆ 津波災害
- ◆ 洪水災害

① パネリストによる発表

② パネリスト同士による意見交換

③ 司会者によるポイント整理

④ フロアからの質問タイム

⑤ 司会者によるまとめ

修学旅行事前学習
パネルディスカッション

長岡技術科学大学の学生さんから説明を聞いています。災害時期待されるロボットです。

実際に国際ロボット競技大会で活躍している本物のロボットもあります。

令和2～3年度

(3) 3年生

3年生総合「小新ロボット」

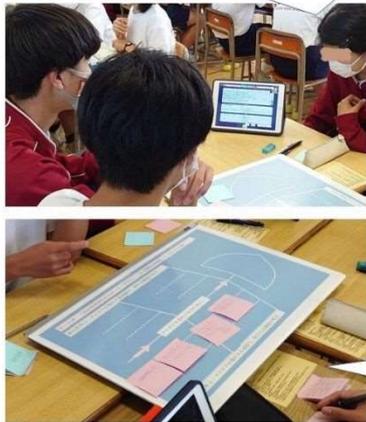
思考ツール（フィッシュボーン）を用いた検討



3年生では、これまでの防災・福祉の学習を基にロボット・AIを本格的に学び、現代社会の問題に対して、自分なりの解決への提案を行う学習を進めています。

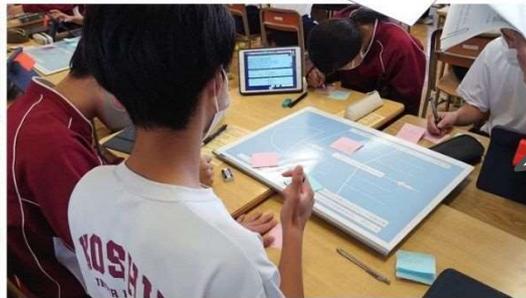
具体的には、2040年に実用化を目指すロボットやアプリケーションを構想し、それが活躍する未来の小説「未来防災小説」を書いてApple社のbookにデジタルブックとして発刊しました。ChatGPTを活用して校正を行いました。

① 現段階の構想をプレゼン



② 付箋紙で意見交換

■加える機能・■省く機能



③ 検討結果は写真でiPadに各自記録

グループによる各自の構想の検討の様子です。iPadを使って各自が行うプレゼンを基に班で意見を交換しています。
iPadは生徒にとって欠かせない学習ツールになりました。

Appleのアプリbookの検索で「小新中学校」と打つと全部で7冊の「未来防災小説」を無料でダウンロードできます。世界のトップ4に入りました。

まとめの段階で、グループによる検討会を行いました。iPadにまとめた発表内容の意見交換を行い、不十分な知識や情報を付け加えて完成させました。

また、2040年に実用化を目指すロボット・AIのアイデアを校内の掲示板に掲示したり、ウェルカム参観日に参観者に感想をもらったりすることで社会にとっての必要感を実感しました。

「未来防災小説」デジタルブック

「未来防災小説」は、3年間の学習を再構成してまとめる有意義な探究過程であると実感しています。1年生から学んできたことを再構成して小説を書くこととなります。

令和5年度からは、ChatGPTも活用して、よりよい小説を書くようにしています。

トップ無料

- 
1. 未来防災小説
 2022 三年一組
 小新中学校
 ★★★★★ ☆ [読む](#)
- 
2. 未来防災小説
 2022 三年四組
 小新中学校
 ★★★★★ ☆ [読む](#)
- 
3. 未来防災小説
 2022 三年二組
 小新中学校
 ★★★★★ ☆ [読む](#)
- 
4. 未来防災小説
 2022 三年三組
 小新中学校
 ★★★★★ ☆ [読む](#)

【未来防災小説 3年1組1班の実際（書き出し部分のみ）】

「ダンスがくれたもの 勇気と希望の物語」 一組一班

第一章 未来の小新 街の発展

「こは、二〇三〇年八月十日(土)の、新潟県新潟市西区小新地区。今(二〇二二年)から約九年後のことである。九年という、近い未来である気がするが、この間に街は大きく変わった。街には無人自動車走り、無人の商業施設ができた。いくつもの高いビルが建った。ここ数年大きな災害もなく、街は大きく発展した。これからは発展し続けるだろう。外国人も住んでいて、グローバル化が進んだ街であるともいえる。そして、街は活気が溢れている。Cウィルスは新しいワクチンと治療薬によって感染者数もずっとゼロとなり、公園やホテルでは毎週のようにイベントが行われ、とても平穏で、住みやすい。ただ、地球温暖化が進み夏は日中三十二度以上が当たり前となり、夜でも二十八度以上の日がほとんどになったので、クーラーが必要不可欠である。そして、少子高齢化も進んでいるので、若い人が高齢者を支えている。そんな小新地区にこれから悲劇が訪れることをまだ誰も知らない。」

- 1 -

第二章 ダンスコンクールに向けて 緊張

私は、下町めい。新潟県新潟市西区小新地区に住んでいる、十四歳の中学三年生。ダンス部に入っている。明日は全日本ダンスコンクールの下地区大会。私は部長として、日々、練習を頑張っている。今日は、大会前最後の練習日だ。もう外は暗くなり、もうすぐ練習終了時刻の午後七時になる。「めい。明日のコンクール頑張ろうね！」三年生のさきが、話しかけてきた。彼女は、同じダンス部で私の親友。副部長もしていて、ダンス部の中でも頼りにされている存在だ。「大丈夫！きつとうらなら金賞取れるって！最後のダンスコンクール、楽しみ！」三年生のなさが、話しかけてきた。彼女も、同じダンス部だ。「先輩ならきつと大丈夫です。緊張しないで、一緒に頑張りますよ！」二年生の後輩、りきが話しかけてきた。ダンス部は、このメンバー主体で、いつも楽しく練習している。これで今日の練習は終わり。明日のコンクール、お前たちならきつと金賞を取れるぞ！」そう言ったのは、ダンス部顧問の、羽生先生。今年のダンス部は実力派で、今年は小新中ダンス部が絶対金賞を取れるだろう、どの中学校も確信していた。帰り道、「明日のコンクール、きつと金賞を取れるよね！」私にはそう信じていた。しかし、緊張のあまり、誰も口を開くことはなかった。挨拶すらできなかった。歩き方ですら変になってしまふ。世間から私たちに對しての期待は、とても大きかったのだ。

- 2 -

結局、誰も何も話さないまま、家に着いてしまった。「たたいま」。「おかえり。練習どうだった？金賞取れそう？」私の母は心配性で、優しさが、起こるものつちやくちや怖い。いつも顔をうかがいながら通している。「大丈夫？とても緊張してらわね。明日は朝早いから早く寝なさい。私はお風呂に入って、ご飯を食べたら、疲れのあまりすぐに寝てしまった。明日はきつと金賞を取れるよね！」と願っている。

第三章 地震発生 不安

翌日の朝。緊張を少しでも和らげるため家で練習をしていた。その時間き覚えのある懐かな音楽が流れた。緊急地震速報が出ました。次の地域では強い揺れに警戒してください。福島県会津地方、山形県南部、新潟県全域、長野県北部、群馬県北部、富山県東部です。何が起きたか理解するのに時間がかかり私に帰ったときには遅かった。ドーンという大きな音と共に大きな揺れに襲われた。強い揺れに耐えられなかった私は大きく転倒してしまつた。「めい！大丈夫！お母さんが来てくれた時には揺れがおさまっていた。うん。大丈夫だよ。」立ち上がった瞬間、足に激痛が走った。「お母さん、足を動かすと痛い。どうしよう。私は痛みよりもダンスができないという心配で泣いてしまつた。」

- 3 -

新潟工業高等学校ロボット部の紹介

近隣で活躍している新潟工業高等学校ロボット部のデモンストレーションを依頼することもあります。令和2年度は残念ながら、新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置期間で高校生は参加できませんでしたが、顧問の先生からリモートで紹介していただきました。

新潟工業高校ロボット部が全国でもトップクラスの活躍をしていることを知りました。

活動紹介

ロボット競技



ロボット部の活動の様子を紹介していただきました。

【新潟工業高等学校ロボット部 リモート講演会 振り返り】

高校生がロボット開発に挑戦する「意義」や「価値」「意味」がどこにあると感じましたか。今日の講演会を踏まえて、記入しましょう。

【3年 】
専門的な機械や知識が必要で、大人になってからは挑戦しづらいところ。友達や先輩とともに切磋琢磨しながら開発できる場所。大会などに出ることで

ました。今日はありがとうございました。

【3年 】
これからの時代は特にロボットや、AIが発展する中で、高校でロボットに関する知識を知ることができることに意味を感じた。

【3年 】
一人で悩まない、周りを巻き込むことが大切。改善を繰り返す、新しい改善点を見つけることが大切。講演、ありがとうございました！ロボットへの意欲が深まりました。バレーボールを遊ぶのがすごかったです。

「福祉支援ロボット」体験

9月末、さくらメディカル様の協力を得て、実在する福祉支援ロボットを実際に体験しています。地域の方に案内を出し、民生委員の皆さんにもお越しいただいて、一緒にロボット体験を実施しています。

これまで、考えてきた自分たちのロボットに似ているものもあり、毎年新しいテクノロジーを体験させてもらっています。



福祉支援ロボットを体育館に集めてもらい、実際に体験することができました



【3年間の「小新クエスト」全体の振り返り】

【3年】
 これからの未来では自然災害が増加し、人口減少・少子高齢化による働き手の不足などが起こるといったことは前々からテレビや新聞、本、授業などから知っていて、将来が不安だとも思うこともありましたが、総合の学習を通して将来はロボット、AIの進化がより進み、人々の生活をより支えてくれるようになって知り、勉強になり、安心することができました。最近では自然災害が頻繁に起こっていて、毎年の被害も甚大になり、困難な状況にいる人も以前よりも大幅に増えているが、ロボット・AIを活用することで、被害を最小限に抑えたり、復旧を早く行えたりできるようになると考えました。また、今日体験したロボットの中でHU

できると思いました。
 未来では人口減少などの問題もあるが、今ある貧困や環境汚染などの問題を解決していき、ロボット・AIなどをより活用していくことで将来は持続可能で住みやすい社会により近づいていくと予測しました。
 その未来でロボット・AIとともに働くことを当たり前と考えながらも、人同士の関わり合いやコミュニケーションを必要不可欠なものと考え、よりロボット・AIを頼り活用しながら、自分のことだけでなく、将来や自分の周りの人、環境のことを日々考えながら人の役に立てるような生き方をしていきたいと考えました。

【3年】
 未来は介護される人が多くなり、若い人たちがおじいちゃん、おばあちゃんをお世話するのが多くなっていき、忙しく、大変になると思っていました。しかし、今回のロボットや、AIに関わる学習を通して、私たちはそんなふうにはならないと思いました。未来では、今よりもロボットや、AIが身近なものになると思いますし、新しい技術が発展して、より良いものができると思ったからです。ですが、そのロボット、AIを悪用し、間違っって使う人が出てくるかもしれません。ロボットをそんな人が出ないような未来に私はしていきたいです。そして、この先、ロボットやAIがたくさん活用されていくので、ロ

【3年】
 私は未来を体験することは大事だと思います。なぜなら歳をとったときに心配なことが多いので、早めに経験しておくことで、対策になるかなと思いました。私は歳をとるときは、リモコンで動く車椅子などで生活してみたいと思いました。また、2030年にはSDGsがおわり開発目標が達成していることを願います。あと、地域包括支援センターは近所の方の心配や保険関係の心配事ができたりしたら便利なので使ってみたいし、私のおばあちゃんおじいちゃんや親戚の方にも言ってあげたいです。SWAN ネットは在宅医療や地域との連

4 おわりに

20年前に総合的な学習の時間が教育課程の中心になったとき、キャリア教育も防災教育もありませんでした。

東日本大震災をきっかけに防災教育が総合的な学習の時間の必修のようになりました。防災教育は現代社会の状況からみて、学習しないわけにはいきません。そこで、小新中学校は、「ロボット・AI」というテーマをみつけたのです。防災教育を大切にさらに学校が個性ある独自性をもったエネルギーのある学習計画を立てることができました。これからの防災教育を考える際の参考にしていただければ幸いです。

教育理念：新しい時代を考える 小新中

1 小新中学校の紹介（YouTube・HP）

- (1) 文部科学省 【中学校編】1人1台端末で学校が変わる！ <開始10分後>
- (2) 時事通信社 教育奨励賞 優秀賞 表彰式（全国第1位） <開始3分30秒後>
令和5年10月30日（月）銀座の時事通信社ホールで行われた様子が動画で紹介されています。小新中学校の授賞とスピーチの場面の映像です。
- (3) 文部科学省 「ギガスタメルマガ」第51号 学校の取組例
令和5年11月27日（月）「【特集】1人1台端末の活用が進んだ学校はどうなっているのか」の記事で、紹介されました。
- (4) 理想教育財団 「季刊 理想」通巻150号 冬号 Close up
令和5年12月25日（月）「【Close up】探究学習を通して、未来につながる能力を育成する」の記事で、紹介されました。
- (5) 小学館 「みんなの教育技術」 生成AI活用教育



(1) 文科省動画



(2) 教育奨励賞



(3) ギガスタメルマガ



(4) 季刊 理想



(5) みんなの教育技術

2 Apple アプリ book 小新中学校 未来防災小説発刊

文部科学省動画で紹介された「未来防災小説」が無料でダウンロードできます。拙い作品ですが令和4年度・5年度7クラス分の短編小説をお楽しみください。

① iphone または ipad で book アプリを入れる。
② タップして右画面に

① 検索に「小新中学校」と打ち込む。
② 7クラス分のデジタルブックを無料で購入

未来防災小説 2022
新潟市立小新中学校 三年四組

※お知り合いの方にもご紹介いただけるとありがたいです。これまで、無料ブックの世界ベスト100に入ったことがあります。SF部門にしばれば、世界一になったこともあります。よろしくお願ひします。

3 Apple 社作成の新潟市の取組紹介（HP・YouTube）

（1）Apple 社のホームページで紹介

令和5年の12月に撮影された新潟市教育委員会の取組として、市内の小新中学校・光晴中学校・大野小学校・新関小学校の取組が紹介されています。日本の代表的な iPad 活用教育として世界で同時に配信されています。下の QR コードからご覧ください。



①新潟市全体の説明



②先生方の感想

（2）Apple 社の YouTube で紹介

ホームページと同じ内容とさらに新たに1本、計3本が YouTube でも紹介されています。①②は（1）と同じ内容ですが、③は少しアレンジされています。



①新潟市全体の説明



②先生方の感想



③活用状況のまとめ

（3）Apple 社が「x」で紹介

上記の動画をアレンジしたものが「X」でも紹介されています。「X」で「Apple Education」をフォローするとその中にあります。下記 URL からでも見ることができます。

<https://x.com/AppleEDU/status/1781472853210325449> からご覧ください。

※ 以上、6本4種類の動画の中に小新中学校が登場しています。お時間のある時に、ご覧いただくと嬉しいです。よろしくお願いいたします。

第2部 グループワークについて

テーマ 「地域の未来を支える防災をどう創るか」

「防災」はまちづくりにおける根源的なテーマのひとつです。

近年、地域コミュニティの衰退が危惧される中、この防災についても十分に住民同士の意思疎通が図れていなかったり、そもそも暮らしの中にそうした意識が芽生えにくくなっていたり、ということが指摘されています。

一方で、ゲリラ豪雨や大きな地震の頻発、酷暑と渇水、極端な大雪など、高まる災害のリスクに対して備えることは持続可能なまちづくりをめざす上で喫緊の課題と言えるでしょう。

今回のグループワークでは、様々なバックグラウンドを持つ参加者同士で、「地域の未来を支える防災」のあり方について3つのステップで意見を交わします。

導 入 一人ずつ簡単な自己紹介をお願いします。(5分くらい)

ステップ1 望ましい「地域防災」の未来像は？(15分くらい)

ステップ2 その未来像を実現するための課題は何？(15分くらい)

ステップ3 課題を解決するためのアイデア(15分くらい)

ま と め ステップ1～3の要点をグループ毎の「収束シート」に記入してください。
(5分くらい)

グループワークを進める上での注意事項

- 意見交換の流れを見えやすくするために「えんたくん」を使用します。ご発言の際には、そのポイントを「えんたくん」の上に用意してあるカラーペンで書き残してください。
- お互いが気持ちよく発言できる様、一人でたくさん話しすぎないようにお気をつけください。また、他の人の意見を否定するようなご発言はお控えください。

グループ討議・班別収束シート（一部抜粋①）

収束シート
目指す未来像
全員が主役の防災活動

↓

課題
 ・リーダーが必要??
 ・個人情報保護(プライバシー) **高い**
 ・訓練のバウンス

↓

解決策
 平時から反复の見え関係作り (楽しまながら)
 高校生がキー、防災の意識を高める

収束シート
目指す未来像
 一人ひとりが当事者として、地域ごとの情報を共有し、シミュレーションが可能なコミュニティを創出。それを共有できる者を創出。

↓

課題
 ・少子高齢化
 ・高齢化してくるとどうやって参加する?
 ・みんな参加できず参加したくない人が
 ・フェイク参加が増えておもしろい人も多

↓

解決策
 ・定期的にみんなを促す
 ・イベントとフェイク参加を減らす
 ・モデルの活用
 ・スモールコミュニティをみんなで行う

収束シート
目指す未来像
顔の見える関係づくり 😊😊

↓

課題
 子どもたちと地域で **取組む**
参加人数不足 😞

↓

解決策
 ひろく訓練と子どもを巻き込んで **楽しくやる**
 おみやげや、ゲーム感覚、地域消防団といはたきあ
 マルパの **イベント** 参加者 **組む** 大会! **新聞紙** **リポート** 作成して大会!

収束シート
目指す未来像
 災害時に助けあえる関係

↓

課題
 ・意識の差
 ・避難所運営が未経験
 ・高齢化
 ・連絡方法、連絡先不明

↓

解決策
 ・月曜からの関係づくり
 ・子どものイベント
 ・避難所運営を全世代で行ってみる。子どもの意見をとり入れる

収束シート
目指す未来像
 地域住民が活躍している。どう避難できるか
 共通理解がとれている

↓

課題
 高齢者の避難、人の把握

↓

解決策
**いろいろな世代のイベント・展示を
 日頃から仕組んでいく**

収束シート
目指す未来像
自分の命を自分で守る

↓

課題
 ・一人ひとりの意識を高める → 訓練の参加率を上げる
 ・知識
 ・顔の分かる関係作り

↓

解決策
 参加しやすい訓練(防災グッズ紹介、地震体験、親子が楽しめる内容)
 学校教育で防災の意識を高める。(主体性を持って取り組む)

収束シート
目指す未来像
 命を守るための **地域ぐるみの防災**
 ~全員参加の防災~

↓

課題
 若くは学生や保護者も含め
 すべての世代が防災に関心をもち
無関心な世代をどうにか **かかってくる** **いばらけ** **防犯** **防犯** **防犯**

↓

解決策
 ・大学のつくりかたに位置づける。
 ・地域で強化地域をフレキシブルに **参加** **参加**
 ・学校における防災教育の整理と地域周知
 ・(バトラー)を利用したイベント大会!

収束シート
目指す未来像
普段から顔が見える地域
 ~自ら考え安心安全な環境

↓

課題
 ・リーダー不足、防災への意識の低下(行政)
 ・お金
 ・人へのつながりの不足
 ・他人事、危機感

↓

解決策
 秋葉区一斉防災訓練・コミュニティ協働行事
 金→助成
 子どもの居場所づくり、人へのつながり

グループ討議・班別収束シート（一部抜粋②）

収束シート

目指す未来像

↓

・人的被害が少ない、物的被害の少ない地域

課題

↓

・災害のケースに合わせた対策が確立していない。
・地域でのびん人訓練に全員が参加していない。

解決策

↓

・防災に対する勉強会
・地域での役割の確立

収束シート

目指す未来像 地域の特長に基づいた、避難施設の設置と運営を明らかにする。災害発生時安心できる。

↓

地震、水害、土砂崩れ

課題

↓

災害時の避難場所とルートを確認。ハザードマップ
水害⇒水位、海抜等の表示。アンダーパス等
線状降水帯、内水はんぷし等。緊急対応能力養成
一人暮らし、高齢者対応。視覚化

解決策

↓

指定避難所に関する、シミュレーションの検討と決める。
顔見知りでの強化⇒助け合い。だれでもどこでも助けてやる構え

収束シート

目指す未来像

↓

わかる 見る 地域

課題

↓

意識の低さ
スキル不足、避難経路
同僚的行動のみ⇒算数がない

解決策

↓

防災スタ
算数系イベント
地域の学校と
最新テクノロジー体験
避難所を知る会
体験すると
若世代の交流
SNSの有効活用

収束シート

目指す未来像

↓

災害時の行動も見える化。地域の役割、学校の役割

課題

↓

・学校は敷居が高く、地域との関係も希薄化
・安全神話に陥っている。防災は地域の役割任せ。
・ハザードマップの見方が分からない。どこかの行動がとれない。

解決策

↓

・地域の人が行きやすい学校に！
・地域と学校のつながりを強くする！
・学校の防災教育を、地域の人と一緒に！

収束シート

目指す未来像

↓

命を守る!!

・災害に備えた避難先を知り避難できる。
・避難先で居場所がわかり行きやすいシステム作り
・要員の人も避難できる！

課題

↓

区として... 避難先に向けた避難グッズリスト
学校へ避難したのに... 聞いていない
避難困難者への支援。子どもだけの時(労働者)
家族票は提出するけれど、近所などは良からない!

解決策

↓

学校で親も含めた災害教育!!
家庭で災害について考える日をつくる!!
2-3日分の水、食料の備え。
スマホで呼びかけが出来るシステム作り (利便性)
リストづくりを日頃から

収束シート

目指す未来像

↓

地域ぐるみの自主防災

課題

↓

実際の災害体験が乏しい
知識を蓄積する仕組み

解決策

↓

学校での体験型教育 (地域住民ととこ) (親子で!!)

収束シート

目指す未来像

↓

楽しみながら、(い)なく、主体的に防災力を高める仕組み

課題

↓

・情報弱者、ミ協と町内会連携、人口減少
・顔が見えない、つながりなく、急がしい

解決策

↓

LINE WORKS、CSやミ協で連携して、救地域を結び、継続する仕組み、ミ協としてのイベント、先を見ながら長期的に集めること、やがた(なる)から

収束シート

目指す未来像

↓

一人ひとりが災害意識を持って実際に起きた時に対応できるような地域社会に。

課題

↓

危機意識の薄さ
顔が分からないお隣さん (人間関係の希薄さ)

解決策

↓

小中学生の頃から防災意識を高める
行事やイベントに“防災”を盛り込む
ハード面... 施設、仕組み(自治会など?)
ソフト面... 地域での顔が見える
を整える

当日の様子 ①



当日の様子 ②

